

McDonald's CSR Report 2016



企業概要

日本マクドナルド株式会社

| | |
|------|--|
| 所在地 | 〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー |
| 電話 | 03 (6911) 5000 (代表) |
| 設立 | 1971年(昭和46年)5月1日 |
| 資本金 | 1億円 |
| 事業内容 | ハンバーガー・レストラン・チェーンの経営並びにそれに付帯する一切の事業 |
| 店舗数 | 2,909店 |
| 売上高 | 438,488百万円(直営店・フランチャイズ店合計売上) |
| 従業員数 | 正社員/2,284名(役員・契約社員などを除く) パートタイマー/48,947名(直営店) |

(2016年12月31日現在)

企業情報

コーポレートガバナンス、コンプライアンス管理等は
日本マクドナルドホールディングス株式会社ホームページをご確認ください。
<http://www.mcd-holdings.co.jp/>

編集方針

本レポートでは、マクドナルドが取り組んでいるCSR(企業の社会的責任)を5つのカテゴリーに分けてその活動内容を報告しています。マクドナルドのCSRに対する考え方や姿勢、実践している取り組みを開示することにより、多くのステークホルダーの皆さまと情報を共有し、持続可能な社会をにつなげればと考えております。

内容はCSRに特化したものとし、企業情報に当たるものは日本マクドナルドホールディングスのホームページURLをご紹介します。

報告の対象範囲ほか

| | |
|-----------|--|
| 報告対象組織 | 日本マクドナルド株式会社(一部日本マクドナルドホールディングス株式会社を含む) |
| 報告対象期間 | 2016年1月1日～2016年12月31日 |
| 報告対象分野 | 社会責任領域全般(経営・社会・環境) |
| 次回発行予定 | 2018年3月 |
| 作成部署及び連絡先 | コーポレートリレーション本部 〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー 電話03 (6911) 5000 (代表) |

Contents

01 企業概要・企業情報・編集方針・目次

02 QSC&V CSR

03 Topics

食の安全と安心への取り組み
環境の実績
社会貢献活動

06 Sourcing

原材料調達とサプライヤー

07 Food

品質管理(食の安全、トレーサビリティ)
店舗でのフードセーフティ
商品の情報開示

10 Community

社会貢献活動

12 People

人とマクドナルドビジネス
人材育成・ワークライフバランス

14 Planet

廃棄物対策・環境保全
エネルギー対策・店舗環境
環境データ

17 Top Message

QSC&V

マクドナルドビジネスの理念

マクドナルドは、クイックサービスレストランとしてお客様に最高の店舗体験を提供するため、飽くなき挑戦と絶え間ない改善によって「Q・S・C」を向上させ、マクドナルドならではの「V」を研鑽し続けていくことを使命としています。これが、創業者レイ・A・クロックが提唱したマクドナルドの不变の理念「QSC&V」の向上です。



CSR

私たちの社会的責任

「QSC&V」の向上を実践するのに伴い、さまざまな社会的責任（CSR）を果たさなければなりません。私たちは社会的責任を5つのカテゴリーに分け、それぞれにおいてステークホルダーや社会の声を聞き、誠実に最適な行動を取ることに努めています。

Q **uality**
品質

マクドナルドでは、レギュラーメニューを「世界共通の品質」で提供。そのために、妥協を許さぬ品質管理の実践があり、マクドナルドの確かな品質を支えています。

S **ervice**
サービス

真心のこもったサービスを実践し、お客様に心地よい空間をご提供することで、「FUN PLACE TO GO」「マクドナルドに行けば何か楽しいことがある」と感じていただける。そんなお店づくりを行っています。

C **leanliness**
清潔さ

創業者レイ・A・クロックは“Clean as you go”「行くところすべてをきれいに」と指導。このように店舗・厨房の清潔さを徹底して追求するというクロックの精神はマニュアルの一つひとつの業務や厨房機器の設計にまで活かされ、実践されています。

& V **alue**
価値

Q、S、C、が最高の形で結びついたとき生まれるのが、さまざまなValue（価値）なのです。本物の価値を生み出すために、私たちは常に完成されたQ、S、C、の実践を心がけています。



原材料調達

商品の原材料調達における生産者との関係、調達のプロセスは食の安全確保のために重要な要素であり、商品の安全を保障する原点です。



商品・品質管理

「食」を提供する企業として、商品の安全を確保し、いつも安心して食事をしていただくために品質管理が最優先の社会的責任です。



社会貢献

「私たちがいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」という考えが私たちの社会貢献の原点となっています。



従業員

マクドナルドのビジネスはピープルビジネスであり、人の成長が企業の成長をつくるというポリシーのもと、人の成長をサポートしています。



環境

環境配慮は事業活動を行う企業の社会的責任であるという基本的な考えのもと、常に最適化を図る視点を持って環境対応に臨んでいます。

Topics

食の安全と安心への取り組み

品質管理体制強化

モニタリング検査

第三者検査機関による輸入原材料の定期検査を実施

品質保証部員による定期工場監査

日本マクドナルドの品質保証部員による監査を実施
(無予告監査を含む)

「お客様基準」で店舗を評価していただくスマートフォンアプリ

KODOの運用



お客様からの声を
リアルタイムに把握し、
改善へ



情報の開示 — 見える、マクドナルド品質



食の安全サミットの実施

- 2016年6月13日、第2回「食の安全サミット」を東京で開催
- 農場から店舗に至る関係者、お客様代表ら計250名が参加
- 「つながる食の安全、とどける食の安心」をテーマに知識や経験を共有し、一層の取り組み強化を決意



Topics

環境の実績

2016年 食品リサイクル率

49%

全店の廃棄物量
115,600 トン

食品廃棄物量
95.4kg / 売上100万円
32.8kg / お客様1,000人

外食産業平均 **25%** (平成25年度)

2016年 エネルギー使用量

199,979

電気 **516.6** kWh / お客様1,000人

ガス **23.5** m³ / お客様1,000人

水道 **4.0** トン / お客様1,000人

キロリットル
(原油換算)

2016年 FSC® 森林認証取得 紙製容器包装

FSC® 森林認証取得紙製容器包装率

2020年までに **100%** 達成予定

(FSCライセンス番号: FSC®N002365)

45%

店舗生活環境の向上

100%

店内禁煙

2014年8月より
全店禁煙とし、
現在に至る

Topics

社会貢献活動

チャリティ (ドナルド・マクドナルド・ハウス支援)

2016年 店舗募金金額

71,544,122 円

2016年 利用家族数

6,615 家族

ドナルド・マクドナルド・ハウス

12 力所

スポーツ支援

学童野球 (高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会)

2016年
参加チーム数
全国約 **12,000** チーム

教育支援 (食育支援)

2007~2016年「食育の時間」を活用した授業実施回数

5,573 回

地域貢献

2016年「防犯笛」配布数

859,223 個

少年サッカー (全日本少年サッカー大会)

2016年
参加チーム数
全国約 **9,000** チーム

受講児童・生徒数

約 **160,061** 名

2016年「ハロードナルド」開催回数

813 回

災害支援 (熊本地震募金)

店頭募金金額

17,018,207 円

マクドナルド
義援金金額

1,000,000 円

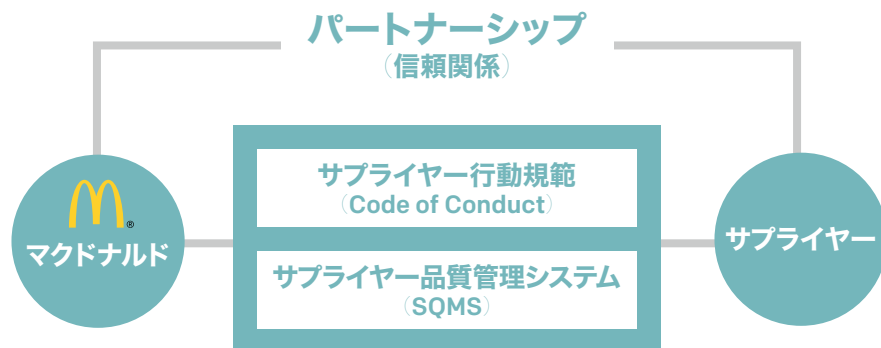
以上、日本赤十字社へ寄付

Sourcing

原材料調達とサプライヤー



食を提供する企業として安全で安心していただける商品を提供すること、それが私たちマクドナルドに求められることです。
そのために、原材料の調達から「安全・安心」を担保することが重要となります。
原材料の生産から加工・物流にいたる品質管理、そしてそれらを提供してくれるサプライヤーとのパートナーシップが基盤となっています。



サプライヤー行動規範 (Code of Conduct)

私たちマクドナルドは誠実さを持った行動を取らなければなりません。
それはパートナーであるサプライヤーにも同様に求められます。
そのため、「サプライヤー行動規範」を設け、その遵守がサプライヤーに求められます。

サプライヤー行動規範の概要

- 適用法及び基準の遵守
- 雇用慣行 労働基準法規の遵守
児童労働、強制労働、差別、及び虐待の禁止
報酬及び福利厚生、作業環境に関する要求
- 検査・監査 サプライヤーによる自主検査の実施
マクドナルドの監査を行う権利

サプライヤー品質管理システム (Supplier Quality Management System)

サプライヤーが高いレベルの品質管理・衛生管理を実施することを目的に、「サプライヤー品質管理システム (SQMS)」を設けています。
全工程での徹底した製造温度の管理、異物混入調査、細菌検査などマクドナルド独自の品質管理プログラムです。
サプライヤーはこれを遵守することが求められます。

SUPPLIER

Food 品質管理（食の安全、トレーサビリティ）

安全で高品質な商品を提供するための4つの特徴

1 製品の品質・安全・衛生に関するグローバル基準

2 国産を含め世界規模の安定した原材料調達

3 農場から店舗までの連続した品質・衛生管理

※ビーフを例にしたトレーサビリティの流れ



4 社会的責任と持続可能な企業行動及び行動規範

※1 GMP：製造・品質管理規範 ※2 HACCP：食品の安全に影響を与える危害を最小限にするための衛生管理システム
 ※3 動物の健康と福祉（アニマルヘルスアンドウェルフェア）：家畜の輸送・と殺における家畜の身体的・精神的な健康に配慮し、ストレスや苦痛を極力排除する考えのもとでの基準
 ※4 BSE：牛海綿状脳症 ※5 SSOP：手洗い、原材料の取り扱い、衛生的な正しいオペレーションを実行するための手順

日本マクドナルド
ローカル基準

日本国内の
関連法規

マクドナルド
グローバル基準

マクドナルドには「品質・安全・衛生」に関する世界共通のグローバル基準があります。そして、日本国内の関連法規、さらに専門家の科学的な知見や社会的環境などによる日本マクドナルドローカル基準を取り入れています。

食材の道のり

<http://www.mcdonalds.co.jp/safety/food-safety/factory/>

Food 店舗でのフードセーフティ

マクドナルドには「食の安全をすべてに優先させる」という理念があります。
そのため、店舗ではフードセーフティを最優先に考え行動しています。
衛生管理システムはHACCP、GMP、SSOPを基に組み立てられ、
衛生管理の確認は「フードセーフティチェックリスト」を用いて記録しています。
機器・設備は「ブランドメンテナンスカレンダー（PMC）」を使用して
メンテナンスを行い、常に最適な状態を維持しています。
また、店舗の衛生管理レベルを評価する第三者による衛生検査を実施し、チェックしています。
いつでも確かな品質の商品をお客様に提供し、
安心して最高の店舗体験をしていただくことが私たちの責任です。

手洗い



温度チェック（グリル）



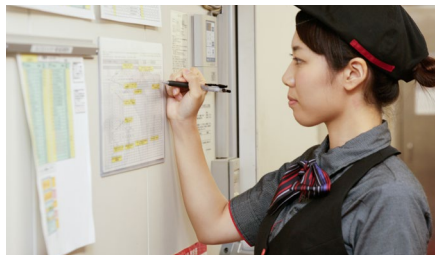
フードセーフティチェックリスト



PMC



PMCチェック



衛生管理システム

HACCP

食品の安全に影響を与える危害を
最小限にするための衛生管理手法

GMP

清潔な環境を維持するための
施設・設備の管理基準

SSOP

手洗い、原材料の取り扱い、
衛生的な正しいオペレーションを
実行するための手順

+

第三者衛生検査

FOOD- SAFETY





Food 商品の情報開示

これらの情報はパッケージの「ORコード」からも確認いただけます。

また、原材料や商品についてのお客様からの疑問や質問にお答えする「マクドナルドのまるごとO&A」を公開しています。

主要原料の原産国及び最終加工国の情報を公開しています。

アレルギー物質の大小に関わらず、すべての原材料を精査した結果を公開しています。

標準的な製品仕様と調理から「栄養表示基準」に基づく栄養分析の数値を基本として公開しています。

商品のパッケージについているQRコードをご利用
いただくと簡単に商品の情報をご覧いただけます。



http://www.mcdonalds.co.jp/quality/basic_information/menu_info.php?mid=1020

<http://gna.mcdonalds.co.jp>

商品の食材やその味に関することから、店舗やサービスに関することまで、お客様からの疑問や質問に、一つひとつお答えします。



Community 社会貢献活動

マクドナルドの社会貢献

私たちは事業活動の強みを活かしながら社会的課題に取り組むことが社会貢献であると考えています。

次世代を担う子供たちが安心して健やかに成長していくために、チャリティ活動、スポーツ支援、教育支援、地域貢献の4つの分野を中心に、子供たちの「食・体・心」が豊かに育まれることを目指して取り組んでいます。

社会とのつながり
<http://www.mcdonalds.co.jp/social/>



チャリティ活動

ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援を通じて病気と闘う子供たちとその家族をサポート、そして日本のチャリティ文化のさらなる醸成を目指したチャリティ活動にも取り組んでいます。



スポーツ支援

子供たちの健全な心と体の育成を願って、地域から世界規模のイベントまで、子供たちの夢や希望・情熱を応援するさまざまなスポーツ支援活動に取り組んでいます。



教育支援

ひとりでも多くの子供たちに食べることのよさや「食を選択する力」を身につけてもらいたいとの願いをもって、食を通じて子供たちの心と体を育む食育を中心とした教育支援を行っています。



地域貢献

「あなたの街とともにあるマクドナルド」として、街の美化清掃活動や防犯など、安全で安心な活気ある街づくりを目指して、地域貢献活動を積極的に行っています。

チャリティ活動

ドナルド・マクドナルド・ハウスへの支援を通じて、病気と闘う子供とその家族を応援しています。



マクドナルドの店頭にある募金箱。「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を応援するために全国の店舗に設置しています。皆さまからのお心遣いが集まって、病気と闘う子供と家族を支える大きな力になっています。

ドナルド・マクドナルド・ハウスは遠隔地から入院している病気と闘う子供と、その家族を支える滞在施設で、高度小児医療を行う病院に隣接して設置されています。2016年2カ所増え、2016年12月末現在日本に12カ所あります。ハウスの建設費や運営費は100%皆さまからの募金やご寄付で支えられており、運営は地域のボランティアの支援で成り立っています。

ドナルド・マクドナルド・ハウス財団
<http://www.dmhcj.or.jp>

●2016年開設



神戸ハウス 兵庫県立こども病院



さいたまハウス 埼玉県立小児医療センター

Community 社会貢献活動



スポーツ支援

学童野球と少年サッカーを中心に支援しています。都道府県大会から全国大会の支援以外にも、スポーツを楽しむ子供たちの夢や希望をサポートしています。



高円宮杯
全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント



全日本少年サッカー大会

大会以外のサポート

● **オリジナルのスポーツ手帳：**
子供たちを応援する盛りだくさんな内容となっており、全国の選手児童たちへ計57万冊を贈呈



● 団結式：

学童野球と少年サッカーの各都道府県代表チームを店舗に招待し、全国大会での活躍を応援する、地域に根差したマクドナルドならではのセレモニーを実施



©JFA

教育支援（食育支援活動）

教育現場で実施される食育授業の支援活動を行っています。2005年に開発した小・中学校のための教材「食育の時間」のご提供をはじめ、DVD付きモデル指導案の配布や教具の貸し出しなど、全国各地で授業を行う先生方の授業づくりのサポートも行っています。



マクドナルド

- 「食育の時間」
企画・運営
- DVD付き指導案の制作
- 食育授業支援事務局
設置



食育事業支援事務局

- 授業相談、
授業実施サポート
- DVD付き指導案無料配布
- 教具の無料貸出など



学校

- 授業内容の決定
- 授業の実施
- ご意見

小・中学校のための教材 「食育の時間」

バランスのよい食生活の重要性をアニメーションやゲームを使いながら楽しく学べる食育教材、食育の時間サイトで公開しています。

<http://www.chantotaberu.jp/>



DVD付きモデル指導案

実践授業を踏まえて作成した45分のモデル指導案に、教材コンテンツと指導ポイントの実践映像を収録したDVDが付いています。



地域貢献

「あなたの街とともにあるマクドナルド」として街の美化清掃活動や防犯など、安全で安心な活気ある街づくりを目指してさまざまな活動を行っています。



ハロードナルド

子供たちが日常生活に必要なルールやマナーをDonaldと楽しく学べる「ハロードナルド」のプログラムを全国の幼稚園・保育園・小学校などで実施しています。



防犯笛

マクドナルドでは、2003年に沖縄県の店舗が地域の要請を受けて防犯笛を贈呈したことを皮切りに、地域の教育委員会や警察等と協力して、毎年全国の新小学1年生に提供しています。これまでに配布した防犯笛は約800万個にのぼります。

全国共通



子育て支援

国と地方自治体が推進する「子育て支援パスポート事業」に協力しています。各都道府県が発行している「子育て支援パスポート」を全国のマクドナルドでご提示いただくと「チーズバーガーのハッピーセット」を特別価格でご提供いたします。



クリーンパトロール

地域美化のために「クリーンパトロール」を継続的に実施しています。また、行政や市民団体主催の清掃活動にも積極的に参加し、地域の皆さまと共に、美しい街づくりに努めています。

People

人とマクドナルドビジネス



「人」の成長が企業の成長をつくるというポリシーのもと、マクドナルドのビジネスはピープルビジネスであると考えています。この考えは従業員ばかりではなく、全国約2,900店舗で働くアルバイトであるクルーも対象としており、さまざまな可能性の機会を提供し、その成長をサポートしています。



全世界共通のシステム

「人」に関して、マクドナルドはグローバル企業として一貫したビジネスを展開するために全世界共通のグローバルシステムを持っています。これにより世界中のマクドナルドで働く人たちが共通した価値観と、グローバル基準で統一されたシステム、人材育成のツールに基づき「人」の成長を基本に置いたマクドナルドビジネスを展開しています。



人材育成のシステム

人材育成を行うためには、人事考課や職場環境の整備、個人の将来と成長を踏まえた制度や仕組みが必要です。マクドナルドでは、独自の人事評価制度（PDS^{*}）の導入、ダイバーシティ（多様性）の推進、キャリアアップのための制度や仕組みの構築などを行っています。

^{*} PDS : Performance Development System



教育機関 （ハンバーガー大学）

マクドナルドには、独自の人材育成機関としてハンバーガー大学があります。アルバイト従業員からマネジメントクラスの幹部に至るあらゆる人材の成長ステップに応じたプログラムを用いてシステムとしてその成長をサポートしています。

ハンバーガー大学
<http://www.mcdonalds.co.jp/company/university/university.html>



店舗での人材育成

店舗は人材育成の現場と言えます。日々の就業とトレーニングを通して学びと実践を繰り返す、多くのことを身に付け成長する自己実現の場となっています。延べ約300万人がマクドナルドでアルバイトを経験し、様々なスキルやリーダーシップを身に付けています。

全国で働くクルーの人数

約 **125,000**人

マクドナルドのアルバイト経験者数

約 **3,000,000**人

（2016年12月現在）

自己実現の場

約2,900の店舗で働くクルーの一人ひとりが誇りと目標を持って働くことができるよう、自己実現のプログラムがあります。そのひとつが全クルーが対象のAJCC(All Japan Crew Contest)です。店舗、地域単位の大会を経て最終的に全国大会で部門別日本一のクルーを決定し表彰します。



People

人材育成・ワークライフバランス



人材育成

ダイバーシティ（人材の多様性）

ダイバーシティ（多様性）の推進では、年齢、学歴、性別、国籍などによる差別のない雇用と組織づくりを推進しています。「男女を問わず誰でも生き生きと楽しく働き活躍できる会社になる」というビジョンのもと、女性社員の雇用を拡大し、女性が活躍できる場を設け、会社の活性化を図るとともに、意識改革を進めています。また、障害者クルーの雇用も積極的に行っており、障害のある、なしに関わらずチームの一員としてともに働くことがごく自然な光景として定着しています。

採用サイト <http://www.mcdonalds.co.jp/recruit/>

人事評価制度

マクドナルドのビジネスの成長には人の成長が不可欠であるという考えを反映した人事評価制度を採用しています。業務達成と個人の成長を関連づけた目標とアクションプランを設定し、何をどのように達成したかを評価するもので、従業員の実務を通じた成長を促し、長期的に個人と会社の成長を実現する仕組みとなっています。

キャリアアップ

マクドナルドは仕事へのチャレンジを積極的にサポートし、成長の機会を与えることが「人」の成長を促すという考えにより、さまざまなキャリアの機会を設けています。クルーからの社員採用も積極的に行っています。個人のキャリアの可能性を拡大する機会として会社が人材を社員に公募する「スタッフ公募制度」、マクドナルド社員からフランチャイジーオーナーへの独立、海外へチャレンジする道も開かれています。

男女別社員比率（全社）

男性社員

70.4%

女性社員

29.6%

女性店長比率

23.9%

障害者雇用比率

2.25%

（2016年12月現在）

PEOPLE



ワークライフバランス（雇用環境）

フレックスタイム・在宅勤務制度

仕事と生活のバランスをとることの重要性を考え、長時間労働に頼らず一人ひとりの生産性を高める取り組みを行っています。これとともにフレックスタイムや在宅勤務制度の導入も行っておりワークライフバランスの推進に努めています。

出産・育児に伴う支援プログラム

マクドナルドでは出産・育児に伴う支援プログラムとして出産・育児休暇はもとより、出産後の復職をサポートする復職支援プログラムや育児のための育児短時間勤務制度などのプログラムを用意し、安心して出産・育児ができる環境を整備しています。

福利厚生プログラム

社員一人ひとりの多様なニーズに対応したサポートを行うことを目的に、福利厚生プログラムを提供しています。

廃棄物対策の基本は発生抑制であると考え、商品の製造にあたってはオーダーメイド方式のメイド・フォー・ユーでの運用、原材料の管理ではイールド管理（歩留り管理）といった基本の徹底を図っています。また、排出して廃棄物に関しては廃食油のほぼ100%リサイクルに加えてさまざまな方法による分散型リサイクルの検討を進めています。

2016年廃棄物量の状況

全店の廃棄物量

115.6 千t/年（対前年+8.7%）

 食品廃棄物量 **40.9** 千t/年（対前年+2.8%）

 紙製廃棄物量 **29.5** 千t/年（対前年+10.5%）

 プラスチック製廃棄物 **4.7** 千t/年（対前年+11.9%）

 その他 **40.5** 千t/年（対前年+13.8%）

客数千人あたりの廃棄物量

92.6 kg/千人（対前年+3.7%）

 食品廃棄物量 **32.8** kg/千人（対前年-2.1%）

 紙製廃棄物量 **23.7** kg/千人（対前年+5.8%）

 プラスチック製廃棄物 **3.7** kg/千人（対前年+5.7%）

 その他 **32.5** kg/千人（対前年+8.7%）

食品廃棄物リサイクル率

49.0%（対前年-0.3ポイント 飲食業界目標 50%）

2016年の対応と状況

業績の回復に伴い、全店の廃棄物量は増加の傾向にあります。（対前年+8.7%）食品廃棄物に関しては対前年+2.8%と増加していますが、客数千人あたりの廃棄物量では対前年-2.1%であり、商品の生産量に対する食品廃棄物は減少傾向にあることを示しています。食品廃棄物リサイクル率は49.0%であり前年から0.3ポイントマイナスとなっています。しかし、売上100万円あたりの食品廃棄物量は95.4kgで対前年-9.8%となっており、食品廃棄物の発生抑制が向上していると考えられます。

業績の回復に伴い、容器包装類に対しても対前年から増加しています。客数千人あたりの廃棄量でも対前年+5~6%となっており、適正な容器包装の使用の徹底を図る必要があると考えています。また、削減を目的に容器包装の種類や大きさの検討も進めています。



環境保全

FSC® 森林認証：

紙製容器包装に関して2020年までにFSC® 森林認証を得たものに100%移行を目指しています。

環境への取り組み

<http://www.mcdonalds.co.jp/social/eco.html>

マクドナルドの環境理念は「地球のことを考えて行動する」です。

その基本的な行動は、常に現状を見て最適な活動を行い、無駄な環境負荷を出さないことにあります。

その対策は店舗におけるエネルギー管理と省エネ機器や最新の高効率機器などの導入を行う設備投資の2つがベースとなります。

マクドナルドではON/OFF管理、空調管理、設備機器のメンテナンスや清掃に関わるプログラムを持っており

その徹底と推進を図るとともに、現状に則した設備機器への投資を進めるべく活動しています。

2016年エネルギー使用状況

全店の種別エネルギー使用状況

電気 **644.8** 百万kWh/年
(対前年 -5.8%)

ガス **29.4** 百万m³/年
(対前年 -3.6%)

水道 **494.2** 万m³/年
(対前年 +0.3%)

客数千人あたりの種別エネルギー使用状況

電気 **516.6** kWh/千人
(対前年 -10.2%)

ガス **23.5** m³/千人
(対前年 -8.2%)

水道 **4.0** m³/千人
(対前年 -2.4%)

全体のエネルギー使用量

原油換算 **199,979** キロリットル/年
(対前年 -6.0%)

原単位エネルギー使用量

原油換算 **0.2724** キロリットル/千レジカウント
(対前年 -10.3%)

温室効果ガス排出量 **56,796** t-CO₂/億レジカウント
CO₂排出量換算 (対前年 -12.0%)

2016年の対応と状況

2016年は設備機器に対する日常のブランドメンテナンス (PMC) の実行、ON/OFF管理、空調温度管理などのエネルギー管理プログラムの適正な実行を前提に、積極的に設備投資を行い高効率な設備機器、デマンドコントロール設備やインバーター制御機器などの導入を図りました。その結果、全体のエネルギー使用量は原油換算で対前年 -6.0%、原単位エネルギー使用量で -10.3%、温室効果ガス排出量 -12.0%、と全体に大きくエネルギー使用の削減が達成されました。

原単位エネルギー使用量が削減されている背景には、業績の回復に伴い生産効率が増加し、生産量に対するエネルギー使用量が減少したためと推測しています。

店舗環境

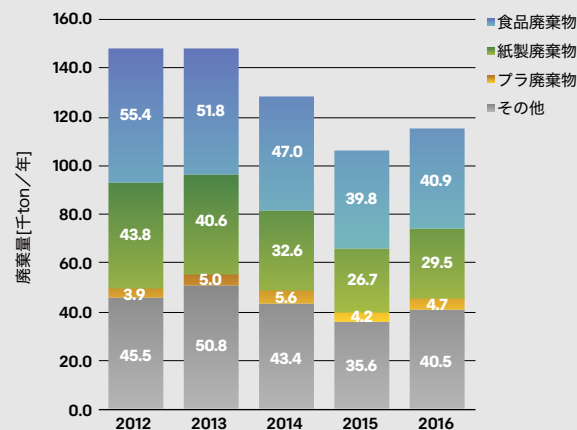
マクドナルドでは「すべてはお客様のために」の考えのもと、店舗での生活環境の改善も考慮しています。そのひとつとしてマクドナルド全店の禁煙の実施があります。これは2014年8月に全店舗で実施されました。これによりお子様連れを含むすべてのお客様に、よりきれいな空気と健康に配慮した店舗環境でお食事を楽しんでいただけたと考えています。今後とも、店舗環境の改善は継続的な課題として推進を図ります。

Planet

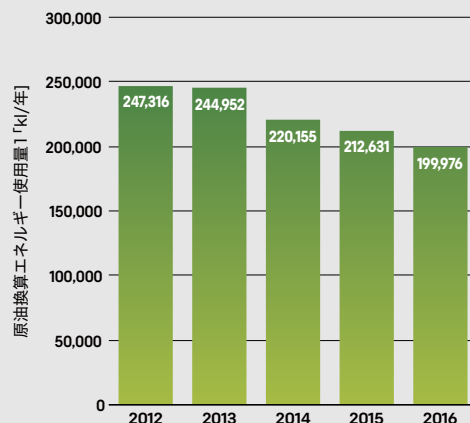
環境データ



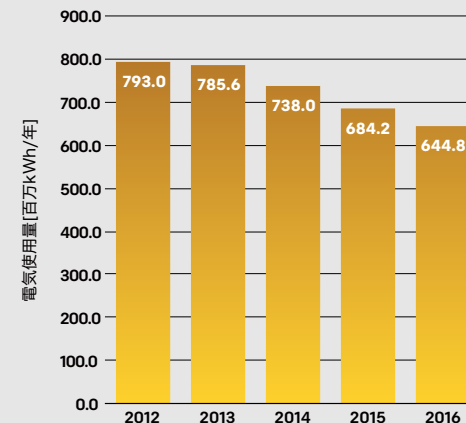
全店廃棄物量推移 [千ton/年]



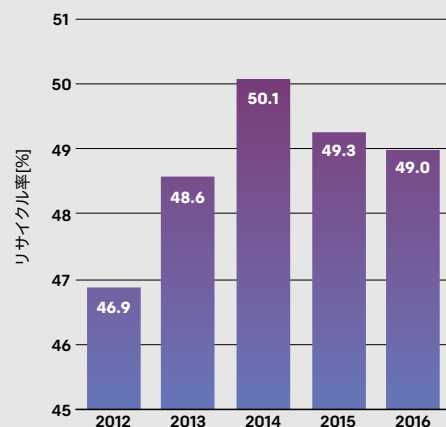
全店エネルギー使用量推移 (原油換算) [kl/年]



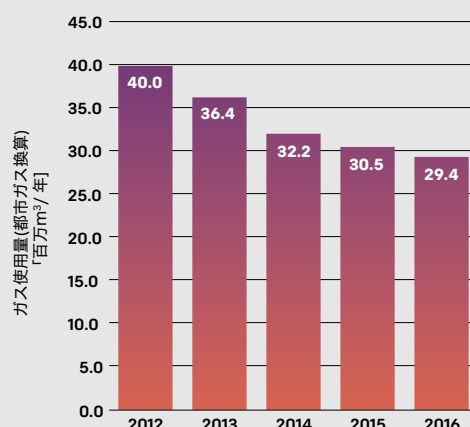
全店電気使用量推移 [百万kWh/年]



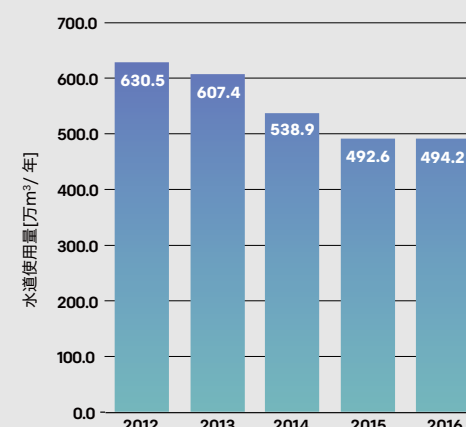
食品リサイクル率推移 (%)



全店ガス使用量推移 (都市ガス換算) [百万m³/年]



全店水道使用量推移 [万m³/年]



※ 外食産業平均 25% (平成25年度)

Top Message

トップメッセージ

CSR Report 2016 をご覧いただきありがとうございました。

私たちにとって企業の社会的責任とは、まず安全で安心できる商品を提供することです。そのために原材料の調達から店舗でお客様に商品が手渡されるまで、一貫した厳格な品質管理を定めて実行しています。これを支えるのが全国約2900店舗で働くクルーやマネージャー、そして店舗をサポートするオフィス従業員です。私たちは人の成長が企業の成長をつくるという理念のもと、従業員の成長を促すことも重要な企業責任であると考えています。私たちは事業活動を展開することにより環境へ影響を与えることを認識しています。したがって「地球の事を考えて行動する」という環境理念のもと環境負荷の削減、環境破壊への配慮に対して努力し、それを継続しています。

直接的な事業活動とは別にマクドナルドの持つ強みと全国に及ぶ規模を活かして社会に貢献することも私たちの果たすべき企業責任です。これはマクドナルドの創始者であるレイ・A・クロックの言葉にある「私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」という考えが原点となっています。私たちが特に力を入れているのが、将来を担う子供たちへの活動です。代表的なものとして病氣と闘う子供とその家族のための滞在施設であるドナルド・マクドナルド・ハウスへのチャリティ活動、子供たちの健やかな成長と夢を育むことを目的とした全日本学童軟式野球大会や全日本少年サッカー大会などのスポーツ支援活動があります。

私たちマクドナルドは、企業の社会的責任を理解し、実行することが多くのステークホルダー並びに社会の成長につながると考えています。このレポートがそれをご理解いただく一助になれば幸いです。

日本マクドナルド株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
サラ・エル・カサノバ

